

硫黄鳥島の火山活動解説資料（平成 20 年 11 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター
沖縄気象台地震火山課

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況（図 1、図 2、図 3）

28 日に第十一管区海上保安本部が行った上空からの観測では、島の北側に位置する硫黄岳火口と、島の中央部に位置するグスク火山火口から少量の噴気が確認されました。各火口の噴気の状況は、今年 10 月 3 日の気象庁による観測時と比べて特段の変化はありませんでした。

また、島の南から南西側にかけて薄青白色、褐色の変色水が確認されました。



図 1 硫黄岳火口（島の西側上空から撮影）



図 2 グスク火山火口（島の南側上空から撮影）



図 3 島の南から南西側にかけての変色域
（島の南東側上空から撮影）



図 4 硫黄鳥島 火口の位置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は第十一管区海上保安本部のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『25000分の1地形図』を複製したものです（承認番号：平 17 総使、第 650 号）。